

# 千鉄局長の新マル生推進のよびかけを弾劾する！



82.11.13 No. 1194

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六)・(公衆)〇五(二二)七二〇七

千葉鉄当局は、去る11月1日付で管理局長・片岡龍之助名をもって、管内全職員に対し、「新マル生推進」をよびかける文書の配布を開始した。「国鉄再建」「職場規律の厳正化」「緊急11項目」の名のもとに、人動凍結・仲裁・定凍結・賃上げストップ、バス廃止などをはじめ、つぎつぎと職場慣行・既得権剥奪攻撃がかけられている。そして、これに従わない者に対しては、処分・乱発をもってドウ喝を加えている。強権をもって国鉄労働者の当然の権利を侵害するのみならず、このような悪質な攻撃をつぎつぎと呼びこむばかりか、闘う労働者を背後から襲い、闘いを圧殺してまわっている動労「本部」革マルの公然たる裏切りと屈服を弾劾しつつ、12月ゼネストを貫徹し、反撃に立ち上らなければならない。

「新マル生推進」を公然とよびかけた千鉄当局管内職員に配布された「当局文書」は、大要つぎのようなものである。

- ① 国鉄経営は、いまや破綻寸前の状態にある。
- ② サービス、職場規律の乱れによる輸送障害など、世論の厳しい批判をうけ、国民の信頼が失われている。
- ③ 従って、国鉄再建へ全力で努力しなければならぬ。
- ④ そのためには、規律ある職場づくり、全職員が増収活動にげみ、あらゆる無駄を排して能率を高め、サービスに徹せよ。
- ⑤ 国鉄のおかれている状況、国民の期待を厳しく認識し、一人ひとりがプロとしての意識を高め、職責を全うせよ。
- ⑥ 千葉局の輝かしい将来を築くために、その牽引者として誇りと使命感をもってまい進しよう。

断じて許さない / 全職場で徹底弾劾せよ

この「当局文書」の反動性は、まず第一に、経営の破綻の責任が全て現場で働く国鉄労働者にあるかのように、全くデタラメなきめつけをした上に、第二に、「職場規律の厳正化」が国鉄再建のすべてだというベテン、第三に、わざわざ「文書にして職員一人ひとりに職制を通じて手渡すというやり方にはつきりしているように、分断・懐柔・ドウ喝を策動しはじめたことである。

われわれは、新マル生推進をよびかけ国鉄労働運動解体を策すこのような国鉄当局の姿勢を徹底的に弾劾し紛砕しなければならぬ。

闘う労働者に背後から襲いかかる当局の先兵  
「動労「本部」革マルを粉碎・一掃しよう」  
「国鉄再建」に名をかりた国鉄労働運動解体攻撃の激化の中で、動労「本部」革マル反動分子は、「現協廃止」「バス廃止」などの攻撃につぎつぎと屈服し、国鉄当局の公然たる先兵となっている。しかも、その上、現下のし烈な攻防の焦点となっている「57・11ダイ改」攻撃に対して、現に国労や動労千葉等が全力をあげて闘いを継続している真最中の11月10日段階で早々

特別に千葉局は、鉄道の特性を発揮できる分野を多く受けもっており、  
私達が自らの手によって、国鉄再建への努力に全力をあげなければならぬ。規  
律ある職場づくりにより安全正確な輸送を確保し、全職員が増収活動に励み、あらゆる無駄を排して能率を高め、お客様に  
よりよいサービスを提供することです。そして、

昭和57年11月1日  
国鉄管理局長 片岡龍之助

と鉄労と完全に一体となつて裏切り受結を行ったのである。そればかりか、全く許せない事には、理不尽極まりない当局の反動攻撃と対決して闘っている国労や動労千葉を「挑発者」よばわりをもつて当局と一体で、いな、それ以上の憎しみをこめて攻撃し闘争を圧殺するために血道を上げていのだ // 今や、動労「本部」革マルの反動的正体は満天下にさらけ出された。労働者の敵「本部」革マルを打倒せよ!!

現在 1/2夜  
闘争速報  
「57・11ダイ改」で、動労「本部」と鉄労は11月10日夜をもつて早々と当局案に全面的に屈服し、国鉄のおかれた状況を認識し...と称して、裏切り受結に走った。のみならず、当局を反動的に尻押しして「国労等を早く受け伏せろ」と再三申し入れ、今なお闘う国労、動労千葉を、挑発者として口汚くののこつてゐる。更に、国労支援を決めた総評に、「ナンセンスだ。決定をとり消せ」と正式に抗議の申し入れを行い、各職場で「国労ストップ弾劾」を叫んで、労働者に糾弾されて